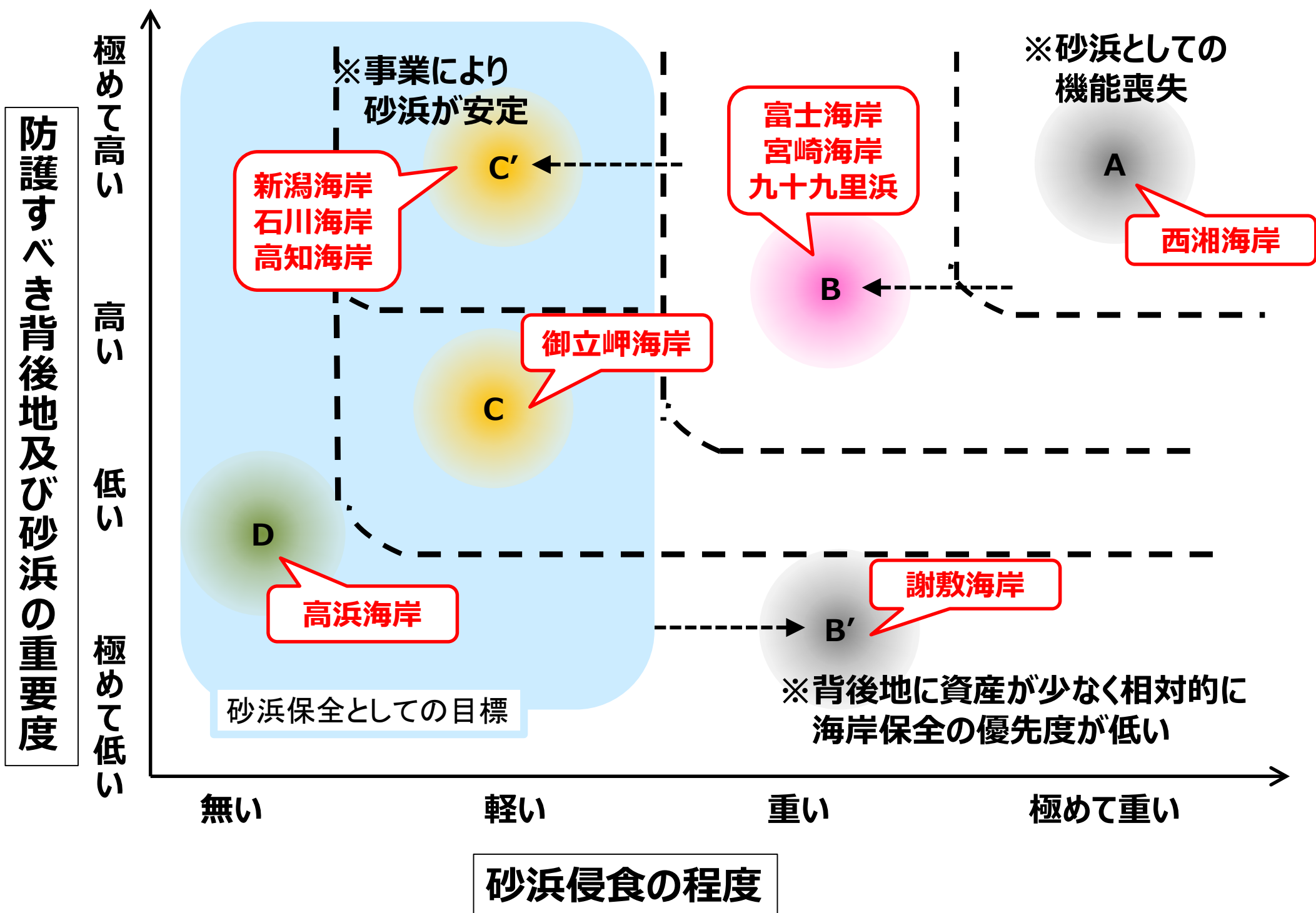


■ 砂浜侵食の深刻度を横軸に、防護すべき背後地及び砂浜の重要度を縦軸にとり、それぞれの砂浜の状態をプロットした。

（砂浜の分類イメージ）

- 砂浜A 侵食が著しく進んでおり、砂浜幅も狭く防護機能に支障を及ぼしている。侵食対策事業により砂浜の回復を図る必要がある。
- 砂浜B 侵食がある程度進み、環境機能や利用機能が低下しているものの、安定している（侵食対策事業による砂浜Aからの移行含む）場合、砂浜を海岸保全施設に指定して適切に管理する。  
背後地に資産が少ないため、保全の優先度が低い砂浜B'もある。
- 砂浜C 砂浜幅も広く残っており多くの利用がある砂浜Cは、まちづくりと一体となった砂浜の積極的かつ適正な活用を図る。  
（人工構造物により同様の状態となっている砂浜C'もある）
- 砂浜D 自然な状態の砂浜が残っており、生態系及び景観上重要である。砂浜の保全を図るとともに、自然環境や景観へ配慮しつつ利用を図ることも考えられる。



# 砂浜の類型化と保全区域、保全施設の指定（素案）

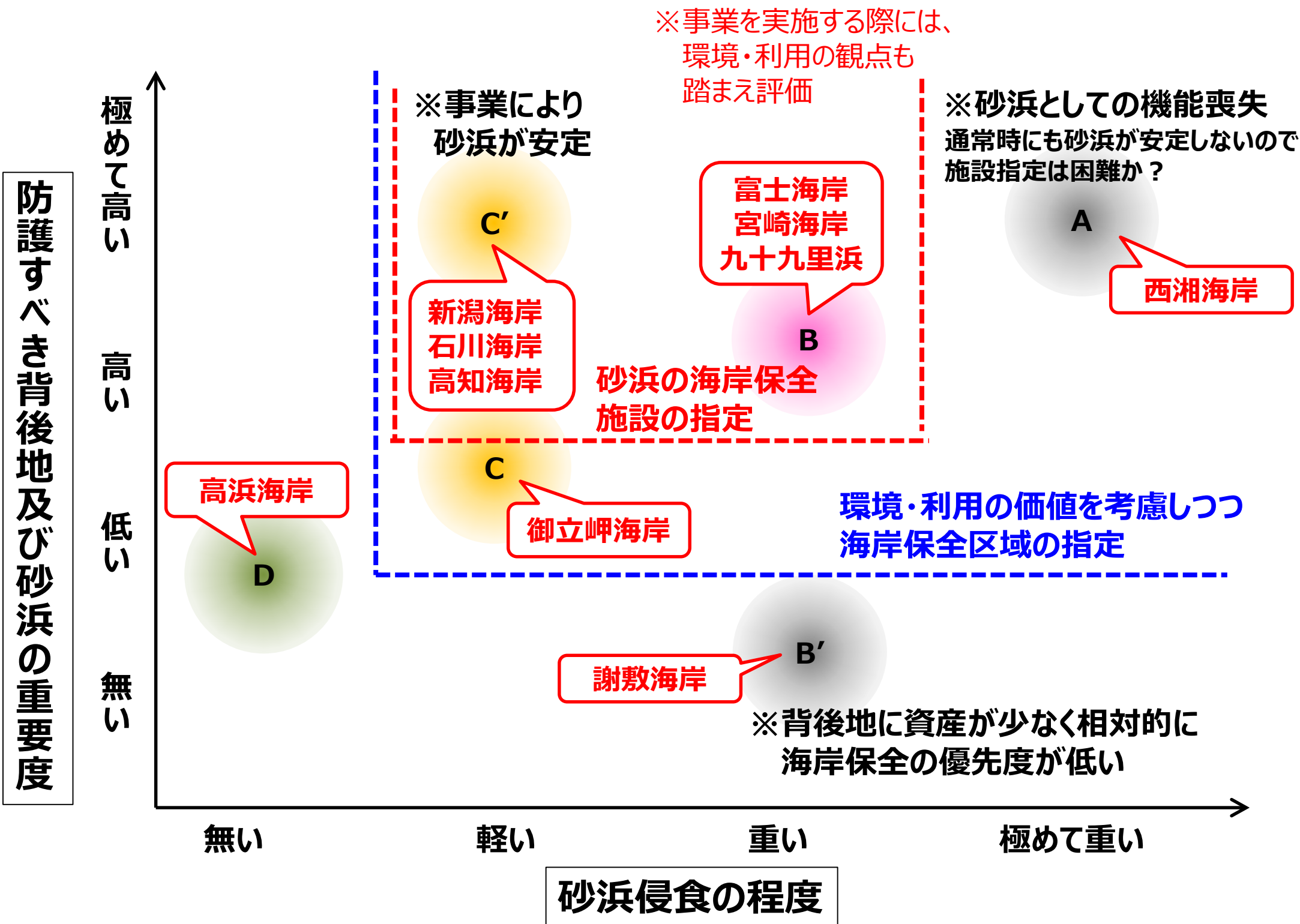
- 類型化された砂浜に応じて想定される海岸保全区域、海岸保全施設の指定の範囲のイメージを図に示した。

## （海岸保全区域を指定すべき砂浜のイメージ）

海岸保全の必要性の高いA、B、C'について区域指定を行う。  
砂浜Cについては、砂浜の環境・利用の価値を考慮しつつ、必要に応じて防護すべき海岸として区域指定を行う。

## （海岸保全施設として指定すべき砂浜のイメージ）

侵食がある程度進み、環境機能や利用機能が低下しているものの、防護機能を有し、長期的に安定した状態を保つことができる砂浜B、または、砂浜幅は確保されているものの、人工的に管理されている砂浜C'を海岸保全施設に指定して適切に管理する。  
（通常時は動的に安定しており、数十年に一度程度の波浪による被災については、災害復旧事業で対応する。）



# 砂浜の類型化とモニタリングの考え方（素案）

- 類型化された砂浜に応じて想定される防護の観点からのモニタリングの実施レベルのイメージを図に示した。

(砂浜の分類に応じたモニタリングイメージ)

## 砂浜A

高頻度、高精度

- 巡視：定期的（週一回、月一回等） または高波浪等のイベントの後に定点撮影を実施
- 測量：最低年一回または高波浪等のイベントの後にナローマルチビーム等により深淺測量を実施

## 砂浜B

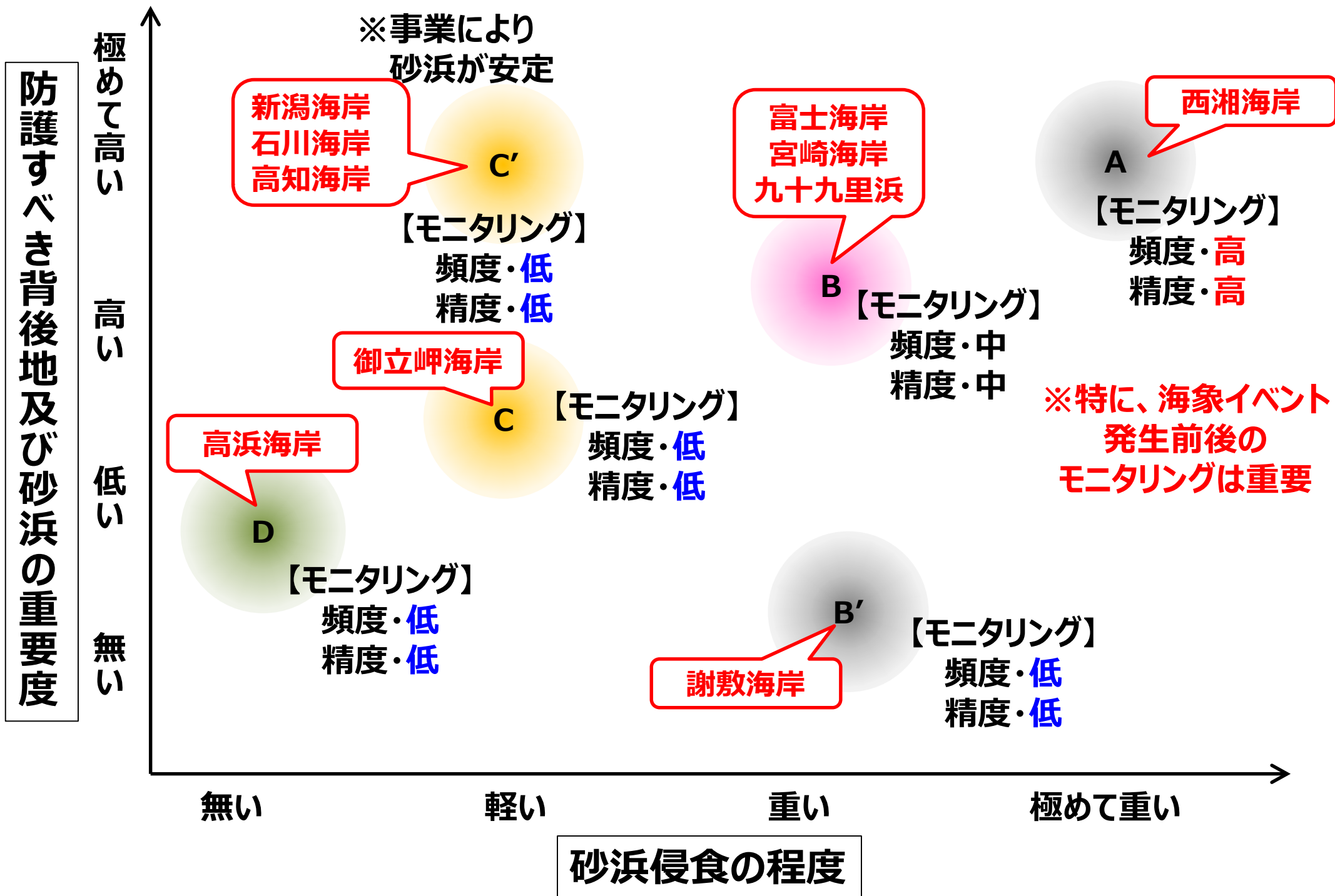
中頻度、中精度

- 巡視：最低1年に一度、定点撮影を実施
- 測量：1年に一度、汀線測量を実施（砂浜幅の把握）

## 砂浜C, D (、B')

低頻度、低精度

- 巡視又は写真判読：1年に一度、目視で汀線位置を確認又は衛星画像等により汀線位置を確認



- 環境・利用の観点からのモニタリングについては、環境・利用の価値（砂浜特有の生物が生息・利用、海水浴利用等）を踏まえ、項目、精度、頻度、範囲を検討

# 類型化した砂浜の例

**砂浜A：西湘海岸**



**砂浜B：宮崎海岸**



**砂浜B'：謝敷海岸**



**砂浜C：御立岬海岸**



**砂浜C'：新潟海岸**



**砂浜D：高浜海岸**

